



黒瀬 顕

KUROSE Akira

弘前大学医学研究科病理診断学講座 教授
弘前大学医学部附属病院病理診断科・病理部 科長

—先生は読書家であるとお聞きしました。学生時代はどのように図書館を利用されていましたか？

僕はそれほど読書家というわけではありません。大学の時はお下宿の部屋が本だらけの人、サルトル、カミュ、ニーチェが並んでいる人なんてざらにいて、恰好いいと思っていました。図書館で借りて読書ということは人並みにはやりませんでした。一番記憶に残っているのは小学校の図書館で借りた「黒部ダム物語」、破砕帯を突破するところなどハラハラしました。高校の時ふとしたきっかけで亀井勝一郎を知り、高校の図書館に彼の全集があったのでよく読みに行きました。卒業写真集などに頼まれると「邂逅し開眼す」と書くのですがこれは亀井の「人生 邂逅し 開眼し 瞑目す」からもらったものです。弘前に来てから太宰にはまり、そして亀井と太宰が親友であったことを知りました。

両者の性格からは実に意外なのですがこう言う出会いも面白いですね。

—ご専門の病理学分野以外ではどんなジャンルの本をお読みになりますか？

長い間名著と言われていたものは読んでみたいです。幾つになってからでもいいと思っています。昨年は意を決して源氏物語(円地文子 訳)を通読しました。

ものの見方という点で一番影響を受けたのは小林秀雄です。学生時代に全集を買ったので今でも折に触れて読んで勉強しています。昔意味がわからなかったことが今読むとすんなりわかるようになることもあります。

—先生にとって「読書」とはどんな意義を持っていますか？

論語に「学びて思はざれば則ち罔(くら)し、思ひて学ばざれば則ち殆(あやふ)し」とあります。「学ぶ」というのは広く知識を得ること、「思う」というのは自分で考えることです。正しい知識を得ずに狭量な自身のイデオロギーの殻に閉じ込められしかもそのことに気づい

まさに邂逅の場だと思います。邂逅というのは努力に努力を重ねた結果ふと神様がほほえんで出会わせてくれるようなものかもしれません。学生の頃は人生や友人や恋愛に悩むことが多い筈。一生懸命悩んで考えていると必ず邂逅が

あると信じています。読書に興味がない人もふらっと立ち寄って眺めてみることをお勧めします。弘前大学の図書館には総合大学だけに様々な分野の本が並んでいます。きっと惹かれる本があ

る筈です。何でもいいですからそういう本を手にとることから始めたらいいと思います。図書館以外でも本屋で興味のある本を見つけたらとにかく買って帰って本棚に並べておく。その時は読まなくても何かの折にふと読んでみようと思うこともあります。そして読んだ本はそのまま本棚に並べておく。そうすると背表紙を見ただけで「ああこの本にはこういうことが書いてあったな」と思いつくはずですが、本との付き合い方は人それぞれですが、自分を高めてくれる親友に出会うのと同じではないかと信じています。

こんにちは、図書館です！

～先生インタビュー～

医学研究科教授・黒瀬顕先生にお伺いしました。

ていない人が何と多いことでしょうか。かかる狭量は他人や社会を害することもあるし、個人の人生を考えれば、嘘を真と信じたまま死んでいくような愚だけは犯したくない(これらを含めて孔子は危しと言ったのだと思います)。一冊の本に書かれていることは僅かかもしれませんが、それを積み重ねていくうちに段々と自分の哲学が構成されていくのではないのでしょうか。そして本当の知識を得た人というのは必ず謙虚です。それは自分の存在が目の前の大海に臨む一匹の蛙であることを認識できるからだと思います。大海を知った蛙は最早井の中の蛙ではありません。専門分野でもスポーツでも「本物」と言える人がその人の歩む道に対して謙虚なのはこういうことではないのでしょうか。

—学生さんへ、図書館の活用方法について、アドバイスをいただけますか？



研究室の一角にある黒瀬先生の蔵書。興味のある学生にあげたり貸したりしている。(和貴君という名前の学生には亀井勝一郎『大和古寺風物誌』をプレゼントしているとのこと。)

病理診断学講座 Web サイト

<http://www.med.hirosaki-u.ac.jp/~anatopathol/>



「つがる点描」コーナーには、津軽の美しい風景に太宰治の「津軽」の一節や黒瀬教授のエッセイが添えられた写真集があります。ぜひお楽しみください。